

研修名 発達支援リーダー研修 第2回 【基礎編】

平成27年9月7日(月) 15:00~17:30

講演「乳幼児の発達と発達障害の理解 発達障害の基礎知識」

講師 清水 里美 氏

1. 映像で観る子どもの発達

1) 映像で観る子どもの発達 (3歳~)

認知…描画は、経験や興味によって絵が変わっていく。

頭足人→胴体→地面、お日様 (上下がでてくる)

概念…数は、自分の歳分ぐらいがわかってくる。5歳児になると暗算ができる。

3~4歳はまだ自己中心的な世界観である。

5歳になると他者の気持ちも理解し始める。

*他者の気持ちが理解が出来にくい子は、「相手は何て思っているの?」など質問調に伝えるのではなく、「…だよ」と明確に言葉を言ってあげることで分かりやすくなる。

言語…3歳児では、言われた物の言葉を指さして答える事が出来たり、物の言葉を伝言でき始める。そして簡単な質問に答えることができる。

4歳児では少し難しい質問でも答える事ができてくる。

5歳児は言葉の順番が、分かり始めて、しりとりが楽しくなってくる時期である。

抽象的な言葉のニュアンスも理解して会話が成立する事が増えてくる。

集団での話し合いでは、相手の気持ちに理解を示して解決へ導くことができる。

ルールあそびのルールを覚えようとしたり、友達に教えながらルールを理解したうえで遊びを広げることもできるようになっている。

2) 気になる子どもの事例から

年齢や個人での成長発達過程の状態に合わせて、一人一人の保育の手立てを考えて支援していく事が大切である。何度も繰り返し同じ場面つまづいている子に対しては、視覚的に理解できるか環境を考えたり、保育士が上手く話す方法、理解しやすい話し方、落ち着いて過ごせる場所の保障などを見つけていくなど何か手立てをみつけていくことが必要だ。発達をおさえて、少し頑張ったらできることを考え「できた」という気持ちや自信が持てる保育作りをしていく。

3) 発達障害特性の理解

MSPAとは発達障害用の要支援度評価スケールである。一人一人の特性の強さと支援度が表でみることが出来る。

4) 発達障害の支援

発達障害の特性を周囲が理解することで、一人一人の特性の強さや個性に合わせて課題や問題を解決していく事ができる。

周囲のサポートがきっかけで、その子の居場所が確保され、安心して落ち着いた気持ちで生活や人との関わりが出来るようになっていく。

また、子どもに対して保護者との関係を深めて、サポートできることがベストである。

保護者が悩んでいる事や不安を一緒に考え、成功した経験を伝え合うことで解決へ導くことができるようになるという。共有できる喜びを増やしていき信頼関係を築いていく。

5) まとめ

①発達理解の為に確認すること

自分の感情を言葉にできているか、自分で選択できているか、好きな活動はあるか、自己主張ができているか、達成感がある活動ができているか等。

②環境調整のために確認すること

部屋の構造、動線、集団のサイズ、先生の指示、保育の流れ、他児の様子、モデルの存在、手がかりの量等。

③支援を計画する上でその子の発達に合わせた計画をしていく。

④家族との連携のために子どもの育ちを共有して家族を支援していく。

2. 感想

0歳からの発達基礎を抑えていくことで、子どもが今どこの発達段階であるかを理解できると保育士の対応が発達に合わせた対応や援助ができたり、次の発達段階の可能性を知り次の段階へ目標が設定出来たりするのだと分かった。

発達障害の特性を抑えて支援することで、その子自身が生活しやすくなったり、どこで子どもがつまづいているのかに気付いて対応できることが出来るのでその子に合わせた保育づくりや手立てを考えていきたい。

子どもの気になる点が本当に本人の問題なのか見極めて、視覚的な環境改善や具体的に分かりやすく伝える等の自分の対応を見直し試みようと思う。

(記録 わかば保育園 衣川 静果)